

読売 TV かんさい情報ネット ten

Let' Go 若一調査隊

「世界遺産興福寺の魅力」

令和 5 年（2023）2 月 23 日 午後 4：50～放送

読売 TV の夕方、関西のニュースを送る

「かんさい情報ネット ten」の 1 コーナー

Let' Go 若一調査隊

日常のふとした疑問から、巷をにぎわすあのニュースまで。若一光司と五十嵐竜馬が世の中の調査不足を補います。

今回の「若一調査隊」は国宝・阿修羅像など数多くの仏教美術が！1300 年以上の歴史を誇る世界遺産「古都奈良の文化財」の構成資産の名刹・興福寺の魅力を探る。

境内の建築物は、730 年光明皇后の発願で建てられ室町時代に再建された五重塔をはじめ多くが国宝や重要文化財に指定されていて、国宝館には、おなじみ「阿修羅像」など数々の国宝仏像が収蔵されています。興福寺の歴史や魅力、数多くの“日本を代表する”仏教美術を紹介します。

興福寺は 1300 年以上前藤原氏の氏寺として建立、明治維新の後の廃仏毀釈により領地は没収され荒れ放題となった時期もありました。

中金堂：平成 30 年再建

寺の中心となる中金堂は 710 年藤原不比等により建立、創建より 6 回の焼失再建を繰り返してきた。江戸時代（1717）に焼失後資金不足により 300 年仮堂を建てたままだったが昭和 50 年（1975）仮堂も老朽化が進み、その北の講堂跡に仮金堂が建てられていた。

平成 12 年（2000）から仮金堂も解体・発掘調査が行われ平成 30 年（2018 年）創建当初の姿に忠実に再建された。再建にあたって本堂を支える 66 本の柱はこの大きさのものは国内では手に入らずアフリカ産のケヤキを使った。

右上写真は江戸時代からの中金堂（仮堂）



昭和 20 年頃の中金堂（仮堂）

写真提供：成瀬匡章氏



平成 13 年（2001）興福寺中金堂第一期発掘調査 後ろは仮金堂（昭和 50 年建設）

写真：森本武司氏



再建された中金堂

写真：興福寺ホームページより